

15:03開始

原子力人材のグローバル化について
～なぜ国際化か？国際化の意義とは？～

各企業・機関にとっての国際化の意義
自身・自組織から見た国際化の必要性・意義という視点

海外から見た日本への期待に対してどう応えるか
応えることにどのような意義があるのかという視点

国際社会への日本の貢献
個々の企業・機関のニーズではなく、
また特定の国からの期待というわけでもなく、
日本が国として国際社会に貢献するという視点

パネリスト



吉村 真人

東京大学工学部卒、コロンビア大学修士号取得。現在(株)日立製作所 原子力ビジネスユニット 原子力事業統括本部 事業主管に従事。

1982年入社以来、約40年にわたり原子力事業に携わり、原子力発電所の新設工事のプロジェクトマネジメントおよびプロジェクト開発に従事してきた。2004年～2012年、海外プロジェクト部長、2012年～2015年、グローバルアライアンス・政府関連担当事業主管を歴任、2015年から2020年まで日立GEニュークリア・エナジー株式会社の原子力国際技術本部長として、同社のグローバル原子力事業開発活動を主導した後、2021年に現職に就任



吉江 豊

日立GEニュークリア・エナジー(株) 原子力国際技術本部
ウィルミントンリエソンオフィス
シニアディレクター&ジェネラルマネージャ

東京大学工学部卒業。1992年、(株)日立製作所入社。原子力発電所の機器設計、プロジェクトマネジメント業務に携わった後、2013年から日立ヨーロッパへ出向。帰国後国内原子力再稼働プロジェクトに従事し、2020年から日立アメリカに出向し、現職。



鳥羽 晃夫

(一財)原子力国際協力センター
理事・センター長

東京大学工学系研究科原子力工学修士課程修了。1981年、東京電力株式会社入社、燃焼管理、初装荷炉心設計、安全解析・許認可業務に従事、1993年から1996年日本原子力発電出向GEサンノゼ派遣、福島第一及び柏崎刈羽原子力発電所勤務を経て、2015年より現職。



喜多 智彦

(一社) 日本原子力産業協会 人材育成部長

国際基督教大学(ICU)教養学部卒、米国オハイオ大学 国際研究大学院修士課程修了。1982年、(社)日本原子力産業会議入社、原子力産業新聞記者、科学技術庁出向、国際原子力機関(IAEA)技術協力局 計画管理官(1993-2000)、情報本部マネージャー、国際部長等を経て、人材育成部長(現職)。